

〔 特 集 〕 予期せぬ乳幼児の突然死 (SUDI)

～対策と予防を考える～

本来、どんな時代も子どもの価値は不変なはずですが、少子高齢化時代に子どもの貴重性は高まっているといわれています。「産めよ、殖やせよ」の大口令が社会に轟いた時代がありました。戦争を控え、戦闘員や産業人口の確保が目的でした。最近では、「異次元の少子化対策」とプロパガンダされています。人口構成の多数層である高齢者を支える生産人口の確保が目的に聞こえます。社会が子ども対策を唱えるとき、子どもの現状も未来も芳しくないのが相場です。

今までに、本誌では子どもの死を主題にした特集はありませんでした。死をテーマに据えたのは、子どもを社会の駒と捉える意識と決別し、予防可能な死から子どもを守るとの決意の表れです。安全で安心して暮らせる健やかな社会、差別やいじめがない伸びやかな社会、経済的理由で夢を諦めることがない豊かな社会が求められる姿ではないでしょうか。

成育基本法が成立し、予防のための子どもの死亡検証制度（Child Death Review：CDR）の社会実装が推進されています。「予防のための」とした点が諸外国のそれと一味違うところです。「予防のため」を念頭に乳幼児突然死を皆さんと考えていくことが、この企画が意図するところです。

（東京都立病院機構多摩北部医療センター小児科／小保内俊雅）

